

- ・日時：平成31年3月22日（金） 12:00～12:40
- ・場所：茨城大学水戸キャンパス
- ・出席：20名

会議冒頭、寺井部会長からの開会挨拶があった。次に、配布資料を用いて庶務幹事から活動報告および今後の活動計画、草ヶ谷副部会長から旅費謝金要領改定案について説明がなされるとともに、副部会長の選任、旅費謝金要領改定案について審議が行われた。また、部会賞（奨励賞、学会講演賞）について表彰式を執り行った。

## 1. 寺井部会長の挨拶

今年度3月末が、私の部会長の任期で、今日の全体会議は絶対出席しようとして来ました。私は、2年間、ピンチヒッターのような形で部会長をやらしていただきましたが、どの程度コントリビューションできたのか、やや自分自身、不徳の致すところかなと思っていますが、幸いなことながら、幹事の先生方のサポートにより、何とか無事ここまで到達することができました、ありがとうございました。

## 2. 活動報告（報告）

次の通り報告され、特に質問や意見はなかった。

### (1) 全体会議

- ・平成31年3月22日（金）茨城大学水戸キャンパス

### (2) 運営小委員会

- ・平成30年度 第1回 平成30年5月28日（月） 日本原子力学会 事務局 会議室
- ・平成30年度 第2回 平成30年8月7日（火） 3部会合同夏期セミナー（掛川グランドホテル）
- ・平成30年度 第3回 平成30年10月26日（金） 日本原子力学会 事務局 会議室
- ・平成30年度 第4回 平成31年3月1日（金） 日本原子力学会 事務局 会議室

### (3) 企画小委員会

- ・平成30年度 第1回 平成30年4月18日（水） 日本原子力学会 事務局 会議室
- ・平成30年度 第2回 平成30年8月22日（水） 日本原子力学会 事務局 会議室
- ・平成30年度 第3回 平成30年10月22日（月） 日本原子力学会 事務局 会議室
- ・平成30年度 第4回 平成31年1月11日（月） 日本原子力学会 事務局 会議室

### (4) 夏期セミナー

- a. 第4回 軽水炉燃料・材料・水化学夏期セミナー
  - ・日時：平成30年8月6日（月）～8日（水）
  - ・場所：掛川グランドホテル（静岡県掛川市）

### (5) 原子力学会 年会・大会企画セッション

- a. 2018年秋の大会企画セッション 報告「燃料デブリ研究専門委員会活動報告」

- ① 研究専門委員会の設立趣旨
- ② 事故進展に関する知見の現状と課題
- ③ 燃料デブリの性状に関する知見の現状と課題その1
- ④ 燃料デブリの性状に関する知見の現状と課題その2

b. 2018年秋の大会企画セッション 部会セッション「熔融塩炉開発の国内外の状況」

- ① 世界の状況
- ② 国内の状況（熔融塩技術研究専門委員会報告を含む）
- ③ 中国の開発状況

c. 2019年春の年会企画セッション 合同セッション「燃料デブリと核分裂生成物の特性比較」

- ① 燃料デブリの基礎特性と事故時のふるまい
- ② 核分裂生成物の基礎特性と事故時のふるまい
- ③ 廃炉作業時に想定される燃料デブリと核分裂生成物の挙動の比較
- ④ 廃炉作業時の放射性物質管理の留意事項

(6) ワーキンググループ (WG)、委員会

a. 軽水炉燃料等の安全性高度化ロードマップ検討WG

平成30年12月26日に報告書をHPに掲載（公開）した。主査は東京大学の阿部先生、今後の活動についてはローリングを継続できる体制を維持する。

b. 燃料デブリ研究専門委員会

平成30年度は2018年秋の大会企画セッションで活動報告を実施。主査は東京大学の阿部先生。

(7) 国際会議・セミナー

a. Top Fuel 2018

平成30年9月30日(日)から10月4日(木)までチェコ共和国プラハで「Top Fuel 2018」が開催。

b. 燃料安全研究国際会議 (Fuel Safety Research Meeting) 2018

平成30年10月30日(火)から31日(水)に茨城県水戸で「燃料安全研究国際会議 (Fuel Safety Research Meeting) 2018」が開催。

(8) 平成30年度核燃料部会部会賞の選考

国内規格担当から部会賞（奨励賞、学会講演賞）の選考結果を報告し、以下の受賞者に対して授賞式が行われた。

- 1) 奨励賞：成川 隆文（日本原子力研究開発機構）「ジルカロイ-4 被覆管の冷却材喪失事故時急冷破断限界に関する不確かさ定量化及び低減手法の開発」
- 2) 学会講演賞：高木 聖也（日本原子力研究開発機構）「安全性・経済性向上を目指したMA核変換用窒化物燃料サイクルに関する研究開発（4）燃料模擬物質の粉碎条件と焼結密度の相関」

- 3) 学会講演賞：鈴木 恵理子（日本原子力研究開発機構）「軽水炉シビアアクシデント時に構造材へ化学吸着したセシウム化合物の微細分布評価」

[寺井部会長講評]

核燃料の分野というのは、いろいろと重要な課題がありまして、これについて今後、一步一步解決していくことが、日本の核燃料工学及び原子力工学の将来に対する重要性に大きな貢献をすることになるのかなと思っています。皆さんの今回の受賞というのは、あくまでその第一歩で、引き続き、しっかりと頑張ってもらって、核燃料工学分野、ひいては原子力工学分野、ひいては日本の復興のために、是非とも頑張ってもらいたいと思います。今日は、おめでとうございます。

### 3. 平成30年度収支見直しおよび平成31年度予算（報告）

平成30年度は、夏期セミナーが水化学部会、材料部会との3部会合同開催のため予算は計上していないこと、平成31年度は、通常予算で前年度並み、夏期セミナー予算で部会開催費用を計上していること等が報告された。

### 4. 部会長等の選任（審議）

部会長、副部会長の選任について、次の通り承認された。

(1) 部会長の選任

寺井 隆幸（東京大学）【退任】⇒ 宇埜 正美（福井大学）【新任】

(2) 副部会長の選任

宇埜 正美（福井大学）【退任】⇒ 加藤 正人（日本原子力研究開発機構）【新任】

### 5. 新部会長、新副部会長の挨拶

(1) 宇埜新部会長の挨拶

これから2年間部会長を務めます福井大学の宇埜です。さきほど寺井部会長から「ピンチヒッター」という言葉がありましたが、前々の部会長の湊さんから部会長選任の話が出た時に、核燃料の分野で重要な役割を担ってきた方が規制庁に何名か異動して、少しガタガタとなった経緯があります。それでも何とか活動を続けていますが、今回の学会の年会でも、初日、材料部会が企画セッションで照射試験炉をテーマにして議論が行われています。昨日は、水化学と核燃料の合同企画セッションで、水化学部会から核燃料部会にもっと活動すべきという話がありました。核燃料部会は予算も相当程度あり歴史も古いのですが、若干若い人がいないので活動がちょっと低調かなという気がします。新しい副部会長も含めて運営小委員会、企画小委員会で、ぜひ若い人も参加できるように、夢のあるような活動をしていければと思いますので、ぜひ皆様のご協力をお願いしたく、よろしく願います。

(2) 加藤新副部会長の挨拶

日本原子力研究開発機構の加藤です。本会議は、私、初めての出席で、よく分からないところからとなりますが、自分自身勉強させていただきながら務めさせていただきます。このような機会を与えられましたので、宇埜部会長をサポートしながら、皆様のご協力をもって進めていきたいと思ひます、よろしく願ひします。

## 6. 2019年度業務担当（報告）

次の通り報告され、特に質問や意見はなかった。

担当		2019年度担当者
広報		[九州大学] 橋爪委員
部会報		[関西電力] 堀内委員
国際活動		[GNF-J] 草ヶ谷副部長
国内企画(横断活動、年会時企画)		[東京大学] 寺井委員、[ニュークリア・デベロップメント] 篠原委員
庶務幹事(財務含む)		[中部電力] 原田委員、[四国電力]大堀委員(10月交代)
夏期セミナー幹事		[北海道大学] 小崎委員、[原子力研究開発機構] 天谷委員
部会代表	部会等運営委員	[GNF-J] 草ヶ谷副部長
	代議員	[福井大学] 宇笠部会長、[GNF-J] 草ヶ谷副部長

## 7. 今後の活動予定（報告）

- (1) 部会報 : 第54-1号 (2019年3月17日発行)  
: 第54-2号 (2019年5月末頃発行予定)
- (2) 夏期セミナー : 第31回 核燃料・夏期セミナー  
・日時: 2019年7月10日(水)～12日(金)  
・場所: 宮城県 松島町 パレス松洲
- (3) 講演会 : (未定)
- (4) 国際会議 : 国際会議 ICONE (2019年5月19日～24日、つくば国際会議場)  
: 国際会議 Global/Top Fuel 2019 (2019年9月22日～26日、米国シアトル)
- (5) 運営小委員会 : 2019年度第一回運営小委員会 (2019年5月14日)
- (6) 全体会議 : 2020年春の年会時 (2020年3月16～18日予定、於; 福島大学)

## 8. 旅費謝金要領改定案（審議）

草ヶ谷副部長から旅費謝金要領改定案の説明を行い、審議・了承された。

大きな変更内容は、以下の2件。従来「核燃料部会の旅費・謝金・参加費内規」としていたが、学会に「内規」という正式名称のものがあり、部会では「要領」の名称にするように指示があったため改定した。今回の改訂経緯については、学会の総務財務委員会で承認された「海外旅費等に関する規約」に各部会は合わせるように指示があり、学会の上位規約に準ずるように見直しを行った。

従来との比較において、学生の国際会議への旅費支給、部会会議等への遠方から参加旅費支給について、必要に応じて支給できるよう新しい要領に盛り込んでいる。基本的には従来と同じように夏季セミナーへの学生への旅費支給補助はできるようになっており、実質的には変わりなく、学会の上位の規約に合わせたもの。

本改定は、部会全体会議での審議事項であり、改定日を本日付にして部会HPに掲載する。

以上